

会 議 の 名 称	第2回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	令和4年3月23日（水）午後9時30分から11時まで
開 催 場 所	美和文化会館内 シルバーカレッジ教室
内 容	1 あいさつ 2 協議事項 （1）令和3年度放課後子ども教室について （2）令和4年度放課後子ども教室について （3）アンケート結果について 3 その他
資 料	次第 令和3年度放課後子ども教室について（資料1） 令和4年度放課後子ども教室について（資料2） アンケート結果について（資料3）
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 人 数	0人
出 席 委 員	木全（克）委員、井村委員、溝口委員、林委員、石塚委員、川原委員、村上委員、宮崎委員、大西委員、立松委員、鎌倉委員
欠 席 委 員	木全（孝）委員、柳久保委員
事 務 局	恒川子育て支援課長、林主幹、井上課長補佐、山田主任

井村委員長	開会 あいさつ
子育て支援課長	あいさつ
事務局	資料確認
井村委員長	協議事項 (1) 令和3年度放課後子ども教室について
事務局	令和3年度放課後子ども教室について説明。
井村委員長	はい、ありがとうございました。すごくいい結果が出てますね。嬉しいです。今の報告で何かお聞きしたいことございますか、どうでしょうか。
宮崎委員	グラフとこの数字が書いてある、例えば「子どもが自分の意志で参加したいと思ったから 87」なんですけど、こっちのグラフだと26とか書いてあるんです。このグラフって何です。数字が全然違うのが横に書いてあるんですけど、意味が分からんなと思って。
事務局	表の方が実際の数になりまして、円グラフの方が%になります。
溝口委員	今のアンケート結果の報告を見る限りでですね、子ども、保護者、スタッフも満足度の高い結果が出ておるということで、今のままでですね、継続してやっていけたらいいんじゃないかなというふうに思います。
井村委員長	はい、ありがとうございます。ほんとですね。すごく、内容見ても、子どもさんの顔見ても、楽しそうところが、私らの方にも、伝わりますけど。
立松委員	プログラムですけど、最初の方って、結構、地域の団体さんであるとか、こういった方々と連携して対策というか、プログラム多かったと思うんですけど、この令和3年度を見る

	と、スタッフさんも話し合っとか、お子さんのニーズを聞きながら、企画してプログラムを考えているという印象が強いんですけど。そんな感じで。
井村委員長	そうですね、子どもってすぐ、こう次の次っと、頭が回転してっちゃうから、かなり工夫されてやってみえると思うんですけどね。どうですか、はい。
立松委員	地域の団体さんの連携ってよりかは、もう最初の頃はね、どっちかっていうと色んな方にご協力いただいて、進めてるというイメージが強かったんですけど、割と今はサポーターさんたちが考えて、自主運営してるようなイメージをちょっと感じるんですが、正しいですか。
事務局	令和3年度はですね、コロナがあったもんですから、極力ですね、講師の方を呼ばずにスタッフの方たちで考えていただいたというところがあります。始めた頃については、恐らく、その方たちにお願ひしたりだとか、本当に宮崎さん、沢山の方をご紹介いただいて、講師として参加していただいたんですけど、結局、コロナ禍でありましたので、スタッフの方たちで実施したというのがあるんですが、また来年度プログラムを考えていくんですけど、地域の方とご相談させていただいてですね、していただけると、今お聞きいただいて、子ども教室というものを知っていただきつつ、周知もしていただけたらなという風には考えております。
立松委員	すいません、コロナのことがやっぱり大きいというところですね。もしコロナが落ち着いたら、地域のそういった団体とかと連携しながら、色んな人と関わりを持つという風にまた変わっていくということなんですね。
事務局	変わっていく、変えていきたい。元に戻していくってことですね。
立松委員	わかりました。ありがとうございます。
井村委員長	色んな制限が。大西さんはい、どうぞ。

大西委員	ここにいるスタッフなんですけども、来年度できないという方がですね、まだわからないという方が6名いるんですけども、このできないというところの2名の中に私が聞いとる感じは1名は辞めるということなんです。そうすると、実際に私が知ってるところは、2名のところなんで、1名になっちゃうんですよね。その辺のところは、事務局ではどういうお考えでしてみえるかってことを聞きたいです。
事務局	先程の説明の中で、令和3年度は固定のスタッフ、各小学校の固定のスタッフということで、お話しさせていただいたんですが、令和4年度、この中でお手伝いできないという方もおみえになります。そういった場合については、各小学校固定ではなく、行っていただける小学校にですね、ご協力を願ってお願いしたい、というようなことを、子どもの安全が第一ですので、スタッフの見守りが大切になりますので、そのような対応をしていくと、小学校で、一人しかスタッフがいらないというのは、必ずあり得ない話ですので、いつもお話しさせていただいておりますように、スタッフは最低2名、最小人数が例え2名、3名であってもですね、最低人数は2名、お手伝い願うという形で実施して、令和4年度も参りますので、そういった形を取らせていただきます。
大西委員	ということは、誰かが手伝いに行くというような恰好になるんですか。
事務局	はい。そうなります。
大西委員	誰か来るの。
事務局	はい。お見えにならなければ、今いるスタッフで、どなたかにお手伝いに行く、そういった形になります。
大西委員	このアンケートですね、このアンケートってどこのアンケートですか。
事務局	今いる、令和3年度参加していただいた、子ども達、保護

	者、スタッフになります。次第にあります（３）のアンケート結果についてっていうのは、また別物のアンケートのお話をさせていただくんですが、この今、お渡ししたものは、令和３年度の、これ毎年実施させていただいております、参加者のアンケートっていう形になります。
大西委員	この、今の１７３名っていうのは。
事務局	はい、トータルが、令和３年度１７３名の児童が登録いただきましたので、あま市１２校ですね。そちらのアンケート結果になります。 令和３年度についてはどうでしょうか、よろしかったですかね。はい、それでは、協議事項の、次、令和４年度放課後子ども教室の実施内容について、事務局よりお願いいたします。 協議事項 （２）令和４年度放課後子ども教室について
事務局	令和４年度放課後子ども教室について説明。
井村委員長	それでは、令和４年度に向けて、希望とかあれば、はい、宮崎さんどうぞ。
宮崎委員	例年どおり、入学式等、PTA 総会の時に、ご報告いただいてるじゃない。お知らせとして。それもまた、本年度やっていただけるかなというのがありますね。
事務局	今、PTA 総会自体が、書面に各小学校なってきたてはいるんですけど、先程アンケート結果にもありましたように、低学年が非常に多い事業にはなってます。ですので、１年生の子たちの方に、まだアピールが完全にできておりませんので、４月に入りましたら、入学式ないし、そういった場に機会が設けられるのであれば、お話に行ったりだとか、学校配布ですね、また１年生の子たちにお知らせをして、参加の方をお願いしたいというように考えております。毎年ですが、登録期限過ぎても、過ぎた後も非常に申し込みが多いこともあり

	ます。4月に入るとまた申し込まれる2年生、3年生の子たちでも申し込まれるということはあるので、この人数から若干増えていくんではないかなっていうようには考えております。仮申請いただいた方については、予定としては来月4月、第2週ですかね、土曜、日曜日に、初めて参加する保護者の皆様に、保護者説明会というのも実施いたしますし、説明をしていってですね、説明会に来た保護者の方達、友達同士周知していただけたらなっていうように考えておりますので、よろしくお願いいたします。
村上委員	すいません、今の登録なんですけれども、来年度は甚目寺西なんですけど、大幅に増えてますよね。なんか理由あります。
事務局	非常に多いですね、広げてますね。令和3年度が好評だったってことしかないですね、周知方法とか、特に変えてないので、多分楽しかった子達が友達を誘って、人数が増えていったんではないのかなっていうようには考えてます。
村上委員	そんな雰囲気ありますもんね、西小学校ね。
事務局	はい。東小学校も5名、昨年度と比べますと増えておりますので、逆に南と甚目寺小は、今の段階では減ってるっていうところがあります。
村上委員	あ、そうですか。やはりその学校の雰囲気ってありますもんね。
事務局	友達だとか、そういったことがあると思うんですね。
宮崎委員	コロナの、みんな3回目の接種も終わるっていう感じで、どういう風に世の中が変わっていくかわからないですけども、またちょっと、また、前の、当初のような形に戻るようになるといいなというような希望があります。
井村委員長	そうですね、ほんとね。今はやっぱり、外部の人が入っているのがね、かなり皆さん気を付けてみえますもんね。いつまでコロナが続くか、それ次第で、全然変わってきます

大西委員	もんね。ほんとに、一番の課題かなと思いますけど。他に何でもよろしいので、大西さんどうぞ。 今これ。3月18日時点、先週ですか、これ、まだ、経ってないんですけど、前回も色々話が出ているんですけど児童クラブ、あれの方はどういう感じなんですか。
事務局	今の現状では、例年通りの参加募集ということで、児童クラブに登録される子たちは、利用できないという形で今は募集の方をさせていただいております。ただ、前回の研究会のお話の中で、参加人数が少ないところについてはですね、クラブの子たちもというお話もございましたので、また、4月の人数の登録者数、この研究会を始まる前、連休明け、GWの連休ぐらいにもう一度開催をさせていただいて、始まるプログラムだとか、登録者数、最終の人数等もご報告をさせていただきたいというようなことも考えております。内容のプログラムについても実際まだ学校で、小学校の年間行事が決まるのが、3月末ほんとギリギリのところで決まってまいります。各小学校とも、13回の日程等もまだどこも決まってない、日程が決まってない以上は講師の方もお願いできないというところもございますので、そういったところも踏まえて調整を、また研究会のご意見をいただいて、そのときに、児童クラブの方前回の課題でもありましたので、クラブの子たちをどうしていこうということも、時間の問題、あとで（3）番でアンケート結果、2校、宝小と秋竹小取らせていただいています。そういった結果も踏まえてですね、またご意見いただきつつ少しでも参加して頂ける子どもたちが増えていくように検討していきたいと思っておりますので、お願いいたします。
井村委員長	そうですね。あと、スタッフですね。それに伴って人数が増えるのはすごく嬉しい話なんですけど、協力してくださるスタッフの方がもうちょっと増えると、負担がまた色々なところで、だから全体的に、数字を上げていかないと。でも、保護者の方で参加してくださってるって、すごく嬉しい、今話何人かみえましたので、そうやって、身近なところからでもスタッフとして入っていただけたらすごくまた、いいな

	と思います。どうでしょうか。ほかの委員の方、どうですか。ちょっと落ち着いたら一度、放課後子ども教室を皆さんでどうでしょう、また、見学に私たちが、ちょっと参加とまではいかないかもしれないですけど、一度そういうのも周りの状況見て、こんなコロナがあればだめなんですけど、またどこかで皆さんと一緒に邪魔したいなというふうには思いますけど。あと、よろしいですか、はい。
大西委員	今、市の職員さん達が順番に周ってるんですよ。
事務局	周ってます。今現状では、スタッフさん、必ず職員がお手伝い、スタッフとしてお手伝いするのではなく、現状どのように実施しているかっていうことをカメラに収めたりだったり、こういった活動記録等の写真も職員が撮りに行って、実施しているところではありますので、令和4年度についても同様に実施してる小学校については、周らせていただいて活動の方を見ていきたい、というように考えてますのでお願いいたします。
井村委員長	それでは質疑も無いようですので、次の協議事項の（３）アンケート結果について、事務局から説明をお願いしたいと思います。
事務局	アンケート結果について説明。
井村委員長	はい、ありがとうございました。どうでしょうか。今までの説明ですけど。
事務局	ちょっと補足ですが、今のアンケート結果で令和4年度、あま市の方で12校実施していく中で、早急に取り組める事業・改善点と言いますと、回数、スタッフの問題等もございまして、回数だとか時間の延長というのは今の状況では非常に難しいという状況ではありますが、宝小学校・秋竹小学校ともに先程話ありましたように、児童クラブ登録者の参加、というのが改善点の中で多かったというのと、体験する機会がほしいというのも多かった、あともう一つが実施内容の明確化、ということもございまして、実際、先程山田の方が

	ら説明しましたが、見学の方は周知はさせていただいているんですけど、まだ足りないのかなというのがアンケート結果で分かる形になりましたので、そういったものを増やして実際本当どんなことをやっているんだろうというようなところを、更に学校と連携をとって協力して周知をしていきつつ、実施内容の明確化ということもございますので。ホームページ等には載せてるんです、実際、ただ写真だけで載せてるというところもございますので、今動画等もできることも工夫して行って、今あま市で、みなさんLINE登録されますか、あま市からLINE来ると思うんです、大抵毎日12時にパッカー車のLINEが来るかと思うんですけど、そういったLINEの活用だとか、そういったものを活用して登録している方たちには子ども教室こんなことやっているんだというあま市のホームページから子ども教室の写真だとか動画が見れるようになって、周知していけたらなというようなことも考えていこうかなと思っておりますのでよろしく願いいたします。他の改善点については令和4年度は少し、先程も言いましたように難しいかなと思っておりますが、この3点、クラブの登録、体験する機会、あともう一つが実施内容の明確化、というものはすぐにでも取り組める事業ではありますので、またご意見いただきながら、取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしく願いします。
井村委員長	はい、そしたら川原さん。
川原委員	お聞きしたかったこと、言われてしまいました。あと、一つだけ、ご提案なんですけど、その前に質問なんですけど、体験っていうのは今やってる教室に、体験来てもらうということですよね。来年度以降からの、検討していただけたらというご提案なんですけど、体験会っていうのも、体験専用というか年度末にやってもいいんじゃないかなあという風に。
事務局	例えば、広いどこかの場所を土曜日とか日曜日とかを借りて、
川原委員	通常やっているような場所で、はい、この日は体験会ですね。普段のあの教室にも体験行けるんだけど、体験会っての

	があると、またそれだけのために、多分、案内もすると思いますし、割とこう体験する方もみんなが体験者って思うと、気軽に参加できるんじゃないかなって気がして、一つご提案でした。
井村委員長	他に、はい、どうぞ。
立松委員	今のお話でやっぱり月曜日が例えば習い事であるとか、そんな予定とかも、年度でもしかして子どもさんが行きたいとなったら、習い事をちょっと変えてみるとか、そういうことも可能性としてある場合、やっぱり前の年度に体験してもらっているのは、川原さんのご意見に賛成ですので。あと児童クラブの登録ですか、どう登録できるようにするかっていうのが、前回の議論で、場所的に可能、七宝の宝小が可能であればと思うんですけど、そのあたり、どういう感じなんですか。
事務局	また、ご意見聞きつつ、実施していきたいとは考えてはいるんですけど、先程前回の研究会でも言いました、秋竹と宝については、小学校内にクラブがありまして、大丈夫なんですけど、学校から出る場合の児童クラブもございますので、そういったことを考えていくと、前回、宮崎委員からお話ありました、皆さん平等に7時までということもあったかと思うんですが、その辺の方を今考えている段階では申し訳ないんですけど、今の現状では5時まで。クラブの登録者の方がもし仮に、子ども教室に参加した場合は5時にお迎えに来ていただく、という形ではないとスタッフの育成だとかそういったことの研修、あとどう行っていくということもありますので、ちょっとできてもそこまでではないかなあと考えてはいます、今のところの状況ではありますけど。 どうぞ。
立松委員	では、延長してっていうかクラブにまた戻るとか、そういうことではなくてその日はクラブじゃなくて、放課後子ども教室に参加して帰っていただくっていうことですね。そうしないと、公平性が保てないという、全学校で。
事務局	ただ、前回も宮崎委員からお話ありましたように、本当は

立松委員	公平性で言うとクラブは7時までっていうクラブの利用料をお支払いしていただいて実施している状況ではありますので、その辺のご理解が得られるかどうか、っていうところが一番あるところです。
	そもそもそのプログラムって、保護者の方がお家でみれないっていう、保育ができないってことで預けるという場だと思うんですね。この趣旨が多分根本的に違っているものですから、ただ児童クラブに行ってるけれども、そういった体験的な活動を楽しみたいっていうご意見があるのであれば、体験していただいて親御さんのご理解をいただいて、5時に迎えに来ていただく形で進められると利用率は上がるのかなと思います。
事務局	
井村委員長	先ほどのアンケートでいうと、今現状の子たちで言えば、クラブの方通っている子が募集したところでも、1名ないし、2名の参加っていう形になりますので、この2校だけで言えば、アンケート結果だけで全てが言えないので申し訳ないんですけど、どれだけ増えていくのかなっていうのは、見ていかないといけないかなと思います。ただ、参加が少ないこの2校だけっていう訳にはいかないとはいかなと思いますよ。モデルじゃないですが、テスト的に見たら大変失礼になってしまうんですけど、今後12校同じように実施していかないと、あの小学校だけクラブの子が参加できるっていう訳にはいかないとはいかなと思いますので、話として考えた場合は12校実施するのにどの様な形でクラブの子たちを受け入れることができるのかっていうのを、全体を見て考えていかなければいけないかなとは考えてます。
林委員	
林委員	このアンケート結果からみると子ども教室の認知度が高いってことになるよね。
事務局	
事務局	そうですね。子ども教室の認知度が高いよっていう数字です。ただ、子ども教室は分かっているんだけど、先ほど言いましたように、もしかしたらクラブに行ってるから行けない、どんなことやってるかわからないから行かないだとか、そういったご意見等もありますので、ちょっとそういったところ

宮崎委員	を内容について、今後はさらにちょっともう一つ踏み込んだ内容を周知していったら、子ども教室っていう例えば言葉だけで、皆さん理解されてるかもしれませんが、体育館の中で何やってんのっていったら、中々先ほど課題に言われましたように、体験していただけてないので、まだ参加して初めて体験できてますので、そういったところを体験会ですとか考えていきたいです。 それに、当初から言っているようにこの放課後子ども教室の理念っていうのがあると思うんですけども、その理念をチラシに謳ってこれを目標にこういう活動をしていますっていう風に謳っていかないと、何をやっているかわからない、何を目標にして動いているかわからないという風に捉えられるんじゃないでしょうか。
事務局	ただほんとに、この理念の中で運営してるだけが子ども教室ではなくて、地域の方たちとの交流、異学年の交流、そういったことに基づいた理念に基づいて実施してるっていうことも。
林委員	はい、それが元々の趣旨だから、その趣旨を間違えちゃうと僕らが当初からやってきた内容がひっくり返っちゃって、例えば児童クラブだろうが、子ども教室だろうが、一緒になっちゃうと、並びがおかしくなっちゃって、きちんと最初から僕らが分けたように、きちんとそちらの方向へ向かって、このあま市の12校がスタートしましたんで、ここでもう一回、きちんとスタートして、そこをその先に一応課題なり、改善点なりあれば、やっぱり一辺そこで立ち止まって、考えていくって形にしないと、もう今児童クラブと放課後子ども教室とがわからなくなっちゃって、やっとな中身が一緒だからっちゃうことで一緒にしちゃうと、基本はおかしくなっちゃうと思うので、スタートで僕らもやってきたし、あま市の、あま市版を作るって言ってるんで、そういう形ともう一つ、まっすぐに絞ってその中で、先、その先をまた、法律も変わるかもしれんし、こっちの方も考えていかないかなんというのかもしれないけど、当初の目的だけは、しっかり果たせるようにしていきたいなと思いますけどね。

井村委員長	はい、本当です。基本のこと忘れないように。どうぞ大西さん。
大西委員	今これ、アンケートで時間を延長する場合は5時なんですけども、秋竹と宝のアンケートでも秋竹であれば、多い方で4番目なんですね。宝では半分、3番目なんですね。18名と、13名。この辺のところが、5時にお迎えが必要だからということで、会社なんか5時で終わって、来れないって人もいるだろうけども、何時までやれそうというようなお話があるんですか。
事務局	実際そこまで何時までというのは、アンケートでお答えいただけてないという、その辺のところはあるんですけども、今の児童クラブが7時までっていうところがありますので、多分保護者の皆様は、7時というのを頭に想像されているのではないのかなって思うんです。これ想像で申し訳ないですが、というところです。
大西委員	その辺のところも考えていただいて、保護者が家にいるからというところが大きいんで、ウエイトが、その辺のところが保護者さんがいるからいいやというところなのか、何か他に理由があるのか、ですね。その辺のところを探ってもらった方がいいんじゃないかなと思うんですけど。
事務局	先程、宮崎委員から理念の話出ましたけど、子供教室は預けの場ではない、っていう地域との交流をしていただくっていうのがあの理念、大前提の理念ということになりますので、時間を延長して預けていただくということでもないでしょうし、保護者が家にいるから、保護者が家にいるからという、この14人だとか、そういった大きなウエイトはですね、子ども教室はこういったことをやっていますっていう周知、こういったアンケートお答えしていただいた方も、もしかしたら子ども教室の内容をわかってみえないかもしれない、っていうところもありますので、そういったところのですね、先ほど言いました周知を重ねていって、これまた、今年度だけのアンケートではありませんので、今後も実施していって、違う学校をとってもいいですし、色んなご意見を聞きつ

	つ、改善できたら、こういったアンケート結果にもこれまたご意見いただいて、アンケート項目を増やすこともできます。そういったことも考えていってですね、研究を進めていって、そして、預けの場じゃなくこの地域の交流を重ねられる子ども教室目指してやってきたいと思ってますのでお願いします。
井村委員長	はい。
立松委員	過去に美和の時に6時までやってた時があったんです。その時は最後の1時間だったかな宿題をやってもいい時間にして、宿題をみるわけじゃないんですけど、そういう風にしてたんですけど、どうしてもやっぱり保護者の方は良い預けの場みたいな、良いつて言ったら変ですけど、ちょっとそういう感じも受けて、活動の中身に保護者の関心が薄まってしまって、っていうような印象も受けたんですね。なので、今皆さんおっしゃられるようにどこまで放課後子ども教室の趣旨っていうところを、しっかりとお伝えしていただいて預ける場所ではなくて、子どもたちの健全育成の場であり、地域で関わって、子ども達の成長を促すみたいなのところを、保護者の方もそれを理解して協力していただくっていうふうなところに、持っていけるといいのかと。なのでこの保護者が家にいるから＝習い事をしてるっていうのに繋がってるかなと、送り迎えがあるとか、低学年が多いと思うものですから、となるとこういった子たちが、他の曜日にその習い事を変えてね、じゃあ、放課後子ども教室だって、すごく意義があるよねって思っただければ、その辺の変更とかいうこととか、お子さんが行きたいって言えば、保護者の方もお迎えに行っても、待てないねっていうことになるかと思えますけどね。
井村委員長	まだほんとにスタートしたとこ、ほんとにそうですよね。スタートしたとこなんですよね。で、やっと足並みがそろったっていうとこですよ。色んなこれからのこの放課後子ども教室の知名度っていうか、いいところを、他のと違うっていう良いところを、もう少し、宣伝が下手っていうか、中々難しいんですけどね。中々お母さん達ともそれこそ、入学式

	とか何か、1年に1回のチャンスとか、そういうのを利用しながらだから、だからほんとに、時間の経過が大変なんですよね。スタートのときに子ども教室の参加させようと思って、子どものその予定をそこでやっとならして組んでっていうところが中々ね、チャンス、ほんとに、1回のチャンスで、どれだけの子どもさんが来てくださるかなっていう、それを間の1年かけて地道にじわじわと子どもたちが、口コミで段々広まってってくれたら、もっとありがたいよね。だからこの、体験っていうのもほんとに、いいチャンス。子どもに対してのチャンスっていうか、こんなことやってるのとかって、やっぱり、楽しいっていうことを子どもたちが自覚すると、また親御さんの気持ちも少しずつ、変わるかも。ほんとに12校揃って、まず始まりますので、でもやっぱり、ちょっと前の話も、今段々思い出しながら、そうそう最初はこういう思いだったなとか今、自分たちも、少しずつ薄れてきたことが、あ、そうそうここは違うんだな、こういう。やっぱ地域の人がね、絡まなきゃな、とかって。また少し忘れたことを、また繰り返しながら、自分でももっといい、ちゃんと元の、ちゃんとした道に舞い戻さなきゃいけないなって、そんな風に今、思いました。やっぱり、こうやって話をする、会話をしながら、意見聞きながら皆さんのこう、一つにまとめたもので進めて、やっぱりいかなないと、ほんとに、結構12校って、それぞれみんな、地域差があるから一緒にくたにね、全部一緒にっていう、中々難しいと思うんですけど。スタッフの方が色んなほんとに苦労していただいて、ほんとに中身は飽きないように、色んなのをいっぱい苦労されてるのがすごくよくわかります。これからもほんとに、皆さん体調を崩さないように、頑張っていたきたいなと思います。あとはどうですか、はい、どうぞ。
大西委員	これ、児童クラブも同じようなことやってるんですか。
事務局	違いますよ。もう、まったく違う。児童クラブの方は、こういった余裕教室の活用としてそういった子たちが授業が終わった後に、各学年時間が違いますので、終わる時間が教室に集まって、スタッフと一緒に色んなトランプだとか、そういった子どもたちが飽きないように、保護者が迎えに来る

	まで実施しているという。
大西委員	ちょっとわからないのであれですけど。こういうことやっ とるの、てことは、入るのにも高い。
事務局	児童クラブの方は、基本月 5 千円という利用料、保育料で すね。児童クラブは預けの場ですが、放課後子ども教室は預 けの場ではないということがあります。
宮崎委員	それに毎日じゃないんですよ。
立松委員	家庭的なね、家庭的な居場所作り。
事務局	はい。ただ、クラブも子ども達楽しんでますよ。支援員が 一生懸命、子どもたちがやりたいことに結び付けてやってく れてますので。ただ、毎日、利用率が全然違いますから。全 く違うものです。
林委員	中身はああやって似とるけど、やっぱり元が違うから、回 数だとかね。
事務局	はい。やってるこう体育館を活用して何か運動するだとか、 そういったことは、クラブはありませんので。
川原委員	いいですか。
井村委員長	はい、どうぞ。
川原委員	ここの研究会ってものがあるってことで、ここで色んなこと を考えて決めてるってことは、現場のスタッフさん達にはど んな風に伝わっているのかなと思ったんですけど。ここで、 やはり皆さんスタッフさんのおかげでっていう、これだけの 高い満足度で運営されてるってことに対して、もちろんスタ ッフさんたち現場でも、やりがいを感じてらっしゃると思う んですけど、この委員会でも、そのことに対しての感謝の意 見が出たっていうことを、是非伝えていただきたいなという ふうに思いました。

事務局	必ずお伝えいたします。
井村委員長	そうですね。はい、どうぞ。
木全副委員長	すいません。現場の方からってということで、今回、ここの中で欠けているのはスタッフに関する事なんですよね。この4ページの写真見ていただいたら、これ、ほんの一瞬で、ここにスタッフの写真は何も出てきませんけれども、スタッフが計画を立てる、それから当日はもう運動場なり、いわゆる最後のお別れ会まで迎えに行って、消毒やって、荷物を置かせて、挨拶やって、今日のプログラムを宣伝して、順番にやって終わるってということで、すごく大変なんですよね。その辺のところが出てきていなくて、スタッフの教育が、今ほとんど足りないんですよね。だからスタッフの研修ということもちょっとやっていただきたいってということで、普通、私すいません、教員上がりだもんだから、視点が全然違うかわかりませんけども。理念からいくととにかく、地域の資源と地域の人と触れ合うってということで、楽しくやるってことが大事なんですけど。まず、子どもたちがどういう顔をして、今回、一日の授業を受けて集合してきたか、っていう指針ができるってということ。そして、今日使う教材や会場がどれだけ安全であるかっていうこと。そして、対応する自分自身で、スタッフの健康ということで、色んな視点から安全ってというのは考えなきゃダメなんですよね。そうすると、2ページ見ていただきますと、各校の定員が50名とあります。どこから50名が出てきたかってのはまだわかりませんけれども、今回、仮申し込みで甚目寺西が35名です。一応今、登録の人が合計で4名、西いらっしゃいますけど、4名で、もちろん応援はあると思いますけど、35名、1年から6年までみるってのは不可能です。今、1学級の人数は何人ですか、ましてや体育館です。そうすると、4人が連携して、リーダーの人が立ったら、サブの人はどこのポジションで子どもたちをみるのが有効なのかとか、そういうことまで研修してかないと、スタッフは人数を沢山おればいいっていうわけじゃないってことですよね。だから、そういう研修が一つ抜けてるってことと、スタッフ、それから、子どもたちが増えれ

	ばいいっていうよりも、内容が充実した方がいいってことも併せてやって欲しいと思います。そうすると今回、コロナが明けて後半に、外部から講師の先生を呼びました。全学区ができた訳ではありませんけれども、その辺のところで地域にはこんな素晴らしい人がいるよっていうのをやっぱり子どもたちに伝えないとだめですよ。今日来ていただいたのでお願いしますでは、非常に寂しいので、事務局にもお願いして今回はこういう方を呼びました、ちょっとプロフィールを紹介させていただきます、っていうような形で、ただそういう学習もスタッフにしていってほしい。今回、理容師さんに来ていただきました、私、美和の会場は全会場出てますので、様子見てますけれども、理容師の先生に何か質問ありますかかって言ったって、誰も質問しません。もちろん、色んなことから、質問が出るんだけど、そうするとその辺のところで、どういう形でその外部講師の人達を盛り上げていくかってなると、「はい、子どもたちね、体の中で一年に大きく成長するところは三つあります。どこですかーって聞くと、やっぱり、身長があって、爪があって、毛がある。はい、それでは毛は先生、一日に、あるいは一か月にどれだけ伸びますか。」答えてくれます。どこどこで理容室をやってますので、行ってくださいとは言わないですけどもね。そうすると先生から、自分のプロフィールとかなんかは喋られるっていう、そういうところまでやっぱりやっていけると、特色で内容が充実してくるんじゃないかなと思ってます。だから、確かに沢山増えてもらった方がいいんですけど、4学区全部スタートできたんで数だけでなく、内容もちょっとずつ高めていくっていうことも必要じゃないかなということです。アンケート結果で最初に取り組む課題とかなんかを今、仕分けしてね、やってくださるってことは、その通りだと思いますので、本年度やる、来年度やるっていう風に分けてですね、ただし、SNSも動画発信というのはもう、最優先じゃないかと僕は思います。お母さん、おばあさん、今日、放課後で作ってきたやつを家でこうやってくれたよって、おばあちゃんがね、見せてくれるんですよ、家へ持ってってから。だからほんとに、もちろん写真のも必要ですけど、なんか市のYouTubeチャンネルじゃないけど、いっぱい載せる方法もあると思いますので、そんな方法を考えていただきたいという
--	--

井村委員長	ことと、ほんとにねスタッフが、どれだけ苦勞して準備してやってるかっていうところを、やっぱり、報告させていただきたいと思います。以上です。 ありがとうございました。そういう裏方の話っていうのか、主役っていうか、裏とは言っちゃあ申し訳ないんですけど、準備にかなり皆さん時間かけて、そういう話もある程度表に見えるところで評価していかないと、だめかなって。ほんとに、私達はただここの机の上で話をしてますけど、実際動いてみえるのは、ほんとにスタッフの方なので、そういう風な実際やってみえる方たちの、また気持ちとかそういうのも全然違うと思いますよね。そういう方の意見もいただくっていうのも一つかなとも思います。苦勞の連続だと思いますけれど、子どもの笑顔を見て皆さん、また来てくださっているんじゃないかなと、私も思います。ほんとに、ただもちろん、主役は子ども、それに保護者、でも、もう一つの主役は関係してる方、スタッフじゃなかったら全部が回りませんもんね。同じように、両輪でやらないと、ほんとにありがとうございます。どんどんそういうお話を聞かせてもらわないと、実際私たちの方には、どれだけ大変なことが、中々今の状態ではわからないんですよ。だから、ほんとに本音のそういうお話がしてくださるっていうことは、ありがたいと思います。はい、どうぞ。
村上委員	今、スタッフのことですけど、こんなこと言っているのかどうかわかんないですけど、謝礼っていうのはありますよね、もちろんね。それは今まで聞いたことないけど、多分あるだろうっていうふうに想像はしてますけど、それが十分かどうかわかりませんが、研修とかなんかもスタッフも、やっていらっしゃれば、と思うんですけどね、あんまり、お金でスタッフの方がどのように動いてらっしゃるかっていうことも、ちょっと考えていただくとあれかなと思うんだけど、どうでしょうか。
井村委員長	木全さんいいですか。もう少しお話、よかったら。
木全副委員長	一応、有償のボランティアで金額が決まってますけど、例えばスタッフのアンケートに、今の謝金でどうですかって言

	ったら少ないっていう答えが絶対出てくるとは思いますけども、色んな兼ね合いがあって。ただほんとにボランティアが半分以上の気持ちで、やりがい、子どもたちが大好きだというところが優先されてると思いますのでね、上がった方がいいにも決まってると思います。
井村委員長	ほんとに、本音の話が出ました。やっぱりそういうのも、一緒にやりやすいような、少しでもそんな状況、環境作ってあげたらほんとに、皆さんの努力次第では、そういうことも上がるんじゃないですかと思えば、やっぱり予算であるので、沢山いただければそれに越したことはないと思うんですけど、ここの予算があるからね。その中でまた考えながら、お願いしていきたいと思います。他にはいい、何かありますか。
宮崎委員	今、動いてくれてる、スタッフさんの中の登録の方なんですけど、あま市の学生まちづくりさんっていう団体があって、ボランティア団体さんですけど、その子たちも手伝ってくれたりして。あま市出身の大学生だったりするんですけど、その子たちがアルバイトじゃないけれども、そんな感覚で来てくれたりとかするのもありだと思うので、身近な一番若いじゃないですか。
川原委員	子どもたちも喜ぶよね。
宮崎委員	そうそうそう、一番身近なお兄さん、お姉さんたちが、その近くにいるっていうのも、すごくいい経験になると思いますので、そういったところにもアプローチするのもありかなと思います。
井村委員長	はい、はいどうぞ。
木全副委員	若い力、そこからうちの学校、小学校出身ということで色々アプローチしたんですけど、これ、コロナだからリモートで学校行かんでもいいから来れたっていう場合があるんだけど、月曜日のこの時間に学校行って帰ってきてってなるとほんとに限られちゃうんですね。確かに、去年から2、

	3人来ていただいて、子どもたちも、若いお兄さん、お姉さん、来たら元気になっちゃいますので。そういうのも地元で同朋があるんだけど、ここまで自転車でくるわけにいかないしね。そこら辺ところも、そういう若い人達、これからになると考えていくんだったら、地元の高校生でもいいわけですので、そういうところも次の課題に入れて、検討していただいたらと思いますけど。
井村委員長	はい。あとは、どうですか。もう、皆さんもう少し、おしゃべりどうですか。
宮崎委員	さっきの高校の話で言えば、美和高校にこないだ、違う意味での会合に行ったんですけれども。そこでもちらっと校長先生に、放課後子ども教室っていうものがあるって、地元なのでここで、部活動の一環としていかがでしょうみたいな話は、一応ちらっとは、させていただいた感じです。
井村委員長	そうですね、チャンスがあればね。
立松委員	美和高校は地域連携センターがあるので、J R C部、今は、ボランティア部っていうのかな、地域ボランティア部っていう活動やってらっしゃるので、時間が合えば、可能性はありだとは思いますが。
宮崎委員	その時間帯が、さっきの大学生もそうなんですけど、やっぱり、時間帯がまた平日の。
立松委員	1時間だけとか、あま市内だから、その部活動の時間帯で、要するに、毎回ではないんですけど、可能性はありだと思いますけどね。
井村委員長	そうですね。
宮崎委員	学校も限られちゃうかもしれないですけどね。
井村委員長	はい、色んな意見が出ました。事務局の方で少しまとめてもらって、また本年度の色んなのに、意見として活用してい

事務局	ただきたいと思います。それでは、今日はその他に入りたいと思いますけど、その他のはなにかありますか。 はい、すいません、最後に、その他としてですね、令和3年度、昨年度からこの会場を利用させていただいてたんですが、コロナ禍もあってですね、ちょっと会場が広いっていうところでこちらの方でやらせていたんですけども、令和4年度から、先ほど、5月頃を第1回目を、令和4年度の予定してますって話をさせていただいたと思うんですけど、甚目寺庁舎の第一会議室、一番当初の実施していた場所ですね、そちらの会場へ戻そうと、いうように考えておりますので、また通知文の方には記載させて、通知の方させていただきますので、よろしくお願いいたします。
井村委員長	はい、わかりました。
井村委員長	それでは、あの一、以上で、本日の、あま市放課後子ども教室のあり方研究会を閉会といたします。長い時間、ありがとうございました。どうも、お疲れさまでした。ありがとうございました。